

流石！トヨタは世界一

千葉の県人 鎌田 留吉

6月25日トヨタ(7203)が「2014年度中に燃料電池自動車を日本で700万円程度の価格で販売開始する」と発表した。私の心のなかでは「やっとか！！」という思いと「今のトヨタならこれは本物だろう！！」という思いがあった。

私が燃料電池自動車(Fuel Cell Vehicle)のことを初めて知ったのは、広瀬隆氏の「燃料電池が世界を変える」を読んだのがきっかけだった。この本は390頁もある大部で2001年2月25日に第一刷が発行された。(私はそれを2001年3月13日に読了と記している。)その少し前、藤和彦氏が書かれた文春新書の「石油神話一時代は天然ガスへ」(2001年1月20日第一刷)を読んでエネルギー問題に目覚めていた私は、非常に興奮した。ガスのことを詳しく知りたいと思った私は、当時の勤務先があった虎の門からほど近い西新橋に東京本社がある岩谷産業(8088)を訪問した。それは岩谷が水素ガスの取り扱いも日本一であり、水素ガスのことも教えてもらえるだろうと思ったからだった。岩谷の事業展開に将来性を感じた私は、自分のお客様に買っていただくだけでなく、ファンドマネジャーだった頃の後輩達にも訪問を勧め、彼らも200万株ほど買ったりしたものだ。

広瀬氏の著書には、数年内にもFCVが実用化され世界中で環境にクリーンな自動車が疾駆するようなことが、期待を込めて書かれていた。しかし、現実はそうはならなかった。あれから13年燃料電池自動車の話題は、私には狼少年の話に等しくなった。この間、電気自動車の三菱自動車やその関連でGSユアサが一相場あり、マグネシウムを使った自動車の開発ということで藤倉ゴムが短期間で4倍に化けたりした。それもおそらく、燃料電池自動車というのは、理想的ではあるが、いろいろと問題が多く実用化はまだまだ先のことと市場も考えていたからであろう。

しかし、今や世界一のトヨタが！、世界に先駆けて！満を持して！この機会に！いよいよ！発売するのだ！これは私には「大事件だ！！！」と思われる。

或る材料を聞いて、それがピン！とくるかどうかは、大きな話をすれば、その人の全人生・全教養・全期待が懸ったものだと思う。確かに普及するのはまだまだ先の話だと感じている人が多い。しかし私はこの「理想買い」は相場として大きく、すそ野も燎原の火のように広がっていくと考えている。

今のところ大きく動意付いているのは、水素製造装置の三菱化工機(6331)水素圧縮コンプレッサーの加地テック(6391)そしてわが思い出の岩谷産業(8088)等水素ステーション関連の銘柄だけだ。しかしやがていよいよ発売という頃には燃料電池の仕組みやその革命性が人々にも広く認知され、今東京ガス(9531)等が発売しているエネファームの有意性も見直されてくるであろう。その時の本命は、恐らく岩谷とトヨタのFCVの燃料電池部分を製造すると推測されるアイシン精機(7259)が高い評価を

得ることになるのではなかろうか？

2014.7.16 記